# みんなのひろば

Community Mifune

イラストコーナー

このコーナーでは、皆さんからのお便りをお待ちしています。
どんなことでもかまいません。どしどしお送りください。広報クイズの答えもお忘れなく。

《あて先》〒861－3296 御船町役場「おたより」係　※住所を書かなくても届きます。

《Eメールアドレス》 **kanri@town.mifune.lg.jp**

※匿名希望の場合は、氏名の横にその旨を明記してください。ペンネームでもかまいません。



川﨑　玲緒奈 さん



坂本　彩華 さん



南　仁人 さん


本田　柚葵 さん

イラストはたてに描いてね

## まちへのラブレター

**表**　紙のかるた遊びの中の子ども達、ロボコンどの子も良い表情、素敵な笑顔ですね。町の子ども達が良い顔していると町は明るいです。いつまでもそんな町だといいですね。

（辺田見・Mさん）

未来を担う子ども達が元気だと町も明るく、元気でいられるような気持ちになりますね。子どもたちの笑顔はやっぱりステキです。みんなを元気にしてくれます。取材する私たちも子ども達から元気をもらっています。

（広報担当）

**昨**　年10月に益城町から引っ越してきました。広報ましきから広報みふねをくまなく読ませていただきますよ。カラー写真の部分が沢山あってきれいです。幅広い年齢層に合せて編集されていますね。

（陣・Fさん）

**広**　報のグランプリは惜しくものがされましたが、毎月楽しみに読ませていただいております。町の情報をこの広報より得ています。今年もよき年でありますように。

（辺田見・Yさん）

広報紙も町によって違うでしょうね。広報みふねは幅広い年齢層の人に手に取って読んでいただこうという願いも込めて作成しています。また一人でも多くの人に見ていただけるように、町民の皆さんからのご意見も参考にさせていただいています。広報係へのご意見やお便りも楽しみにお待ちしています。

（広報担当）

## 先生の 青春普話

町内に勤務する先生に、子どもの頃の思い出を話してもらうコーナーです。

### ピアノと過ごした子ども時代



小坂小学校　穂田（ほだ）　幸子（さちこ）　教諭
（熊本市出身・27歳）

私は3歳の時にピアノを始め、高校1年生まで続けました。音楽教室ではピアノのレッスンだけでなく、歌唱やリズムアンサンブル、作曲や楽典などたくさんのことを勉強しました。6人ほどでのグループレッスンだったので友だちと会うのも楽しみだったのを覚えています。時には全然練習をしないままレッスンに行き、先生から頭をはたかれることもありました。何度辞めたいと思ったかわかりません。泣きながら練習したことも何度もあります。しかし、泣きながらでも練習すれば難しかった曲が弾けるようになり、がんばって続けることができました。また、友だちとみんなで一曲を作り上げるアンサンブルがとても楽しく、その時ばかりは張り切って練習していました。アンサンブル発表会は今でも心に残っている思い出です。ピアノを通して、できないことも努力すれば、できるようになると学びました。がんばったことは将来どこかで必ず生きてくると思います。がんばる気持ちを子どもたちには伝えていきたいと思っています。

▼小学校３年生の時、ピアノ発表会での記念写真。（写真中央）



## 文芸 ひとひねり

### 短歌

時として初恋議に盛り上がる吾が短歌会笑いの絶えず
正宗タツ子

吾が里に湧き出づる水清くして住む十二戸の命養う
山本志満子

ふと覗く鏡の中に母を見る吾も七十路眼もと口もと
市川　結子

留守の間に落葉は積もり裸木は錆びたる庭に震えて居りぬ
甲斐レイ子

けんけんぱの扁平の石ひき出しに子の思い出を抱きて坐る
金森　英子

この年の残れるちりと銀杏葉をからめてさらう師走風かな
北村ヤヨイ

クリスマスは「ケーキを食べる日」と答うる子供らに読むクリスマス伝
西梅　孝子

### 俳句

御船春菊句会　大坪蕗子選

農守る夫を支へて去年今年
守田　律子

命がけ繋ぐ襷や今朝の春
丹生　則子

ひとときを鴨と一所の湖畔かな
黒田　順子

大霜を踏んで行く径帰る径
赤星　和子

朝日さすまでの命やうす氷
渡辺　澄江

無事を知るだけでうれしい年賀状
緒方　栞

夜も更けて庭より仰ぐ月の冴え
坂田志美子

### 肥後狂句

天狗会

近い内　家具も衣裳も揃うとる
増永　笑和

見比べて　真似出来んとは母の味
平野　千鶴

年賀状　白寿の恩師健やかに
鳥井　蘭

嬉しいねぇ　まあだキスしてくれる孫
江藤　お竜

運の強さ　通り過ぎたら橋が落ち
吉田　楽園

良か収穫　ついでに孫もでかしとる
河地　ゆき

何から何まで　揃えてもろて挙式さした
林田　実花

### 一般投稿

過疎の地にはぐれて一羽白鷺のこの地に住むか餌をついばみ
内村　孝子

スーパーで見掛けし昔の美少年老ひて白髪星霜哀し
松岡　文江

学び舎に急ぐ吐く息紅顔覆うみつめる瞳はキラリと光り
岩本　順子

忘れられぬ暑いあの（八月九日）あの（十一時二分）を長崎の空のきのこ雲を
餅崎　信子

初盆に冥途の土産はなんだろう　母の椅子に座り仏間眺める
山川　雅弘

ご来光拝むすがたの祖母の顔このあたりだったと我も拝む
山田　桂次